

令和 4(2022)年度事業報告書

1 事業の成果

(1)子どもの権利条約の推進及び、子どもの諸活動に関する支援事業

※ふくいチャイルドライン事業

18歳までの子どもがかける子ども専用電話「ふくいチャイルドライン」は16時～21時毎週月曜日の福井ライン(年末年始などはお休み)と第2第4水曜日の奥越ライン(冬季はお休み)を開設しております。コロナ禍において、時間や受け手人数の制限は継続しながら活動してきました。年間開設日は65日、着信総数は1,922件となりました。このうち会話成立の電話は426件であり、1日あたりの着信数は29.6件、1日あたりの会話成立の電話数は6.5件となりました。2020年度、2021年度と比べ着信件数及び平均着信数は大幅に増加したものの会話成立件数(1日あたりの件数含む)は減少しています。実質の会話成立の割合は22パーセントにとどまっています。無言電話が多いことにはなりますが、子どもからすれば見ず知らずの人に話すのはとても勇気がいることであり、電話を切ってしまうということも想定しています。子どもたちの無言のメッセージも大切にしていきたいと考えています。受け手継続研修は10回開催しました。聴く力を高める講演や自分を知ること、障がいを持つ方の性についてや自殺予防など様々な角度から学んでいただきました。今年度も教育委員会の協力を得て、県内全域の小学校から高校、特別支援学校にカードを84,000枚配布しました。また、子どもの声を聴く受け手を増やすため受け手ボランティア養成講座を開催しました。チャイルドラインの歴史や役割をはじめ、子どもが自己を育てていくために私たちができることは何なのかを考え子どもたちに豊かな子ども時代を過ごしてもらう事を、子どもの権利条約を通じて学んでいただきました。

※みんなのあそび事業

自然体験活動では小学生を対象に秋や冬の森で散策を楽しみました。

※木田児童クラブサポート事業

木田児童クラブ、第2木田児童クラブ運営委員会の委託を受け、『行事企画に関するサポート』『支援員の教育に関するサポート』『保護者へのサポート及び苦情に関する事』この3つの柱を基本に運営業務をサポートしました。

(2)子どもと文化に関する活動の交流、サポート及び人材育成事業

※表現ひろば事業

表現ひろばは、演劇的手法を子どもの活動に取り入れてコミュニケーション力などの非認知能力などを高め、子どもたちが演劇を通して互いに育ちあい豊かな子ども時代を過ごせる場をつくることを目的とした事業です。2022年度は中高生を対象とした劇団を立ち上げました。入団者中学1年生～高校2年生までの8名(11月に1名退団)。3/19(日)の旗揚げ公演には78名のお客様が観に来てくださり、あたたかい感想をいただきました。終演後の子どもたちは達成感に満ち「来年はこうしよう。」など次に向けての言葉も聞くことができました。

また、6月には劇団立ち上げに向けてスタッフ研修を開催しました。子どもの声を聴き、子ども主体で事業に関わる大人を増やしていくためにスタッフ研修も引き続きおこなってきたいと思っています。

※大人が学びあう講座事業

子どもが豊かに育つ社会を目指して一歩踏み出す大人を増やしたいという思いから、毎年子どもの問題を取り上げています。2022年度は『子どもの自由な遊びと学び』をテーマに講座を実施しました。

(3)文化事業の企画、調査並びに文化事業に対する協力及び連携事業

※子どもと文化企画

毎年県内小学校、幼稚園、社協、その他子育て関係団体に演劇や人形劇などを紹介しています。今年度は5月～10月に鯖江市小学校、幼稚園、こども園、木田児童クラブに演劇作品を紹介しました。8月に予定していた福井市児童クラブふれあい事業への演劇作品紹介『ワンダーシャドウラボ』劇団かかし座 は新型コロナウイルス感染症の再拡大により中止となりました。

(4)出版及び広報事業

広報誌『こども channel』を3回、各2000部発行し、子どもNPOセンターの支援者、子ども関係団体、教育機関、公共施設などに送付しました。ホームページやTwitter、Facebook、YouTube、公式LINEでも情報を発信しています。今後も事業の様子など配信していきます。みんなのパネル展2022へ出展し、福井市総合ボランティアセンターに活動紹介パネルを展示しました。

(5)行政・各分野 NPO との連携およびネットワークづくり事業

※行政関連委員会

- ・ 福井県福祉のまちづくり推進協議会(県障害福祉課)
- ・ 福井県立美術館運営協議会
- ・ 福井市行政改革推進委員会
- ・ 地域福祉活動推進会議
- ・ 社会福祉法人 福井県共同募金会評議委員会
- ・ 福井県障害者差別解消支援